

令和2年度 認知症初期集中支援チーム実績報告

報告対象期間:令和2年4月1日～令和3年3月31日

(1)基礎情報

名称	白井市認知症初期集中支援チーム
チーム設置機関	白井市地域包括支援センター
担当地域	市内全域
担当地域の高齢者数	16,790人
うち、要支援・要介護認定者数	2,346人
うち、認知症高齢者数	1414←高齢者の8.4% 認定者の60.3%

※人数は令和2年度の4月1日現在

(2)支援対象者

①対象人数

支援対象者数	11名 (R1:8名、H30:5名)	うち支援終了者数	9名
--------	--------------------	----------	----

②性別

男性	4件
女性	7件

④世帯状況

独居	0人
夫婦のみ	5人
その他	6人

③年齢

40～64歳	0人
65～69歳	1人
70～74歳	1人
75～79歳	4人
80～84歳	4人
85歳以上	1人

⑤把握ルート

家族	9人
介護支援専門員	1人
民生委員	1人
医療機関	0人
近隣住民	0人
本人	0人
その他	0人

(3)チーム活動状況

初動日数	～7日	5件
	8～14日	2件
	15～30日	4件
	31日～	0件
訪問回数		41回
対応回数		159回
チーム員会議開催回数		9回 (うち1回書面)
支援期間	～30日	0件
	31～60日	3件
	61～90日	2件
	91日～	6件
支援終了後の引継先		地域包括支援センター (4件) 介護支援専門員 (7件)

(4)活動評価

評価指標:令和元年度老人保健健康増進等事業「認知症初期集中支援チーム設置後の効果に関する研究事業」報告書において特に重要、有用とされている評価指標を基に作成。

【重要な指標】

評価指標項目	評価指標	実績 (昨年実績)	評価
【支援チーム本来の役割 (早期診断・早期対応に向けた支援体制構築) の評価】	①医療/介護引継	医療/介護引継 平均値	概ね目標達成ができ、各関係機関に引き継ぐことができている。介護サービスにそぐわない場合や、困難ケース等の繋ぎ先として介護保険外サービスの必要性は高いものとする。(介護サービス外の繋ぎ先:認知症カフェ・お元気まもり事業)
	▶自チームの支援対象者の介入時と終了時の受診・介護サービス利用の変化の平均値を算出し相対的な位置づけを確認する。	①A60%未満 0.247	
		②B60～100% 0.731	
		③C100% 1	
	医療/介護引継ケース割合 63.6% (7÷11×100)		

【有効な指数】

評価指標項目	評価指標	実績 (昨年実績)	評価
【どの程度活発に活動しているか/困難な状況に対しての解決力、仕組みづくりがあるかの評価】	②支援対象者	支援対象者数 平均値	●年度内対応ケース数:11事例(8事例)うち、困難事例対応件数6事例(5事例) ●把握経路 白井市地域包括支援センター:5件 西白井駅前地域包括支援センター:4件 白井駅前地域包括支援センター:1件 ケアマネジャー:1件 ●初動日数平均:11.9日(11日) ～7日:5件、8～14日:2件、15～30日:4件 ●支援期間平均:98.5日(154日) ●DBD13スコアの差平均値:-1.9 (うち1事例は介入後のアセスメントを未実施) ●J-ZBI_8スコア差平均値:-6.9(-7.5)
	▶自チームの年間支援対象者数(終了前の対象者を含む)を算出し、相対的な位置づけを確認。 ※困難事例はチーム員の主観的評価 ※対応数が多いことが単に活発に活動している意味ではないことに留意	①A0～5人 2.62	
		②B6～15人 9.25	
		③C16人以上 40.73	
【どの程度素早く対応できているか評価】	③初動日数	初動日数(期間) 平均値	初回訪問までに要する期間をおおむね2週間以内と考えており、ほぼ対応できている。
	▶自チームの支援対象者の把握～初回訪問の日数の平均値を算出し、相対的な位置づけを確認。	①A0～8日未満 3.919	
		②B8～17日未満 2.612	
		③C17日以上 125.7	
【介入の結果、どの程度効果があらわれたかの評価】	④支援期間	支援日数(期間) 平均値	概ね6か月の集中的な支援をおこなうことが前提の介入であり、おおむね期間内に支援終了できている。
	▶自チームの支援対象者の初回訪問～引継の日数の平均値を算出し、相対的な位置づけを確認。	①A0～98日未満 58.31	
		②B98～168日未満 131.2	
		③C168日以上 255.11	
【介入の結果、どの程度問題行動に効果があらわれたかの評価】	⑤DBD13(認知症行動障害尺度)スコア	DBDスコア差 平均値	認知症の行動・心理症状(BPSD)の悪化により関わるケースにおいては、介入によって改善が見込めるケースもあるが、初期段階での介入においては認知症の進行に伴い、大幅な改善を図ることは難しいケースもあると考えられる。
	▶自チームの支援対象者の介入時と終了時のDBD13スコアの差の平均値を算出し、相対的な位置づけを確認。	①A-2.0以下 -5.51	
		②B-1.9～0.2未満 -0.53	
		③C0.2以上 3.956	
	(0-3+14+1-5+0-17-12+0+3)÷10=-1.9		
【介入の結果、どの程度介護負担に効果があらわれたかの評価】	⑥J-ZBI_8(介護負担尺度)スコア	J-ZBI_8スコア差 平均値	家族に対する支援(認知症の理解、本人との接し方への助言等)を重要と捉えており、ほとんどのケースにおいて、介入による負担感軽減が現れていると評価できる。
	▶介入時と終了時のJ-ZBI_8スコアの差の平均値を算出し、相対的な位置づけを確認	①A-5.0以下 -8.28	
		②B-4.9～1未満 -1.63	
		③C1以上 2.80	
	(0-3-1-8-7-16-20-16+0+2)÷10=-6.9		